

郷土の偉人をしのんで 総検校塙保己一先生遺徳顕彰祭

塙保己一の命日である9月12日、セルデイで総検校塙保己一先生遺徳顕彰祭が行われました。式典では、拝礼、献花ののち、これまで遺徳顕彰活動に貢献された方へ感謝状が贈られました。

また、映画「塙保己一ものがたり（仮）」製作委員会による『総検校塙保己一先生啓発動画』も披露されました。

没後200周年の節目となった今回の遺徳顕彰祭では、参加した皆さん一人ひとりが改めて郷土の偉人の遺徳をしのびました。



『世のため 後のため ものがたり塙保己一 原画展』では、前期と後期に分けて展示を行います。

塙保己一記念館で特別展示・企画展 開催中

**世のため 後のため ものがたり
塙保己一 原画展**
▶前期 10月31日(日)まで
▶後期 11月2日(火)～12月26日(日)

**和学講談所の刊行物
～日本後紀・蛭蠅抄・令義解～**
▶12月26日(日)まで

**塙保己一愛用の机
～温故学会所蔵資料特別公開～**
▶11月14日(日)まで

検校保己一奉納の賞相寺の燭台
▶令和4年3月31日(休)まで

目の不自由な方の職業自立を目指して

県立特別支援学校塙保己一学園（盲学校） 高等部専攻科入学者募集

県立特別支援学校塙保己一学園（盲学校）高等部専攻科（3年課程）では、視覚障害（全盲または弱視）の10代から60代の方が、あん摩・マッサージ・指圧・はり・きゅうの技能を習得しています。

卒業時には国家試験の受験資格が得られ、免許取得後は病院や介護施設等への就職、治療院開業、進学への道が開けます。

対象 県内在住で次の全てに該当する方

①両眼の矯正視力がおおむ



県立特別支援学校塙保己一学園（盲学校）

▶川越市笠幡 85-1（JR川越線「笠幡」駅下車、徒歩20分。JR・東武東上線「川越」駅西口から西武バス「かすみ野」行きに乗り、「山伝」下車、徒歩3分）

視覚障害者教育を行う学校です。幼稚部、小学部、中学部、高等部普通科、高等部専攻科、寄宿舎を設置しています。

★県立特別支援学校塙保己一学園（盲学校）高等部専攻科 ☎049・231・2121

②高等学校を卒業した方（令和3年3月卒業見込みを含む）またはこれらの者と同等以上の学力があると思われる方
選考日 11月26日(金)
※募集人員に満たない場合、二次募集（令和4年2月14日(月)実施）を行います。
※相談・見学を随時受け付けています。詳しくは左記へ。

ね0.3未満の方または矯正視力が0.3以上の方で、盲学校の教育を受けることが適当であると判断できる方（身体障害者手帳未取得者も含む）



塙保己一没後200周年

不撓不屈の人

ふとうふくつのひと

塙保己一の生涯

第五話 群書類従②

群書類従の編さん

群書類従を編さんするには、貴重な書物を収集しなければなりません。保己一が収集した書物や弟子の屋代弘賢の蔵書（約五万冊）、さらに幕府の蔵書などが編さんの原点でした。保己一は目が見えないため自分では本を読めません。出かけるときには必ず弟子を伴って、代わりに本を読んでもらいます。

保己一は、一度聞けば内容をほとんど覚えてしまい、二度聞けば一字一句間違えず言えたといえます。まさに驚異の記憶力です。同じ本でも違う人が写した本があればでき

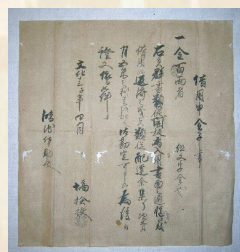
るだけ多く集め、内容を検討し、間違いを正して清書し、それを元に版木を起こします。本の収集、内容の検討、分類、清書、版下の製作、版木製作、印刷、製本というように多くの工程を経て群書類従が作られました。

借金

群書類従を出版するには多額の経費がかかり、その大半を自分で立てなければなりません。大坂の豪商鴻池家をはじめとして、いくつかの豪商より多額の資金を得ることが出来ました。保己一は月ごとの出版冊数や、販売先への配本など、計画的に作業を進めていきました。

草間（鴻池）伊助のこと

草間（鴻池）伊助は、江戸時代後期に活躍した大坂の豪



▲草間（鴻池）伊助におつた金を用立ててもらった借用証文（所蔵：塙保己一記念館）

商で両替商です。京都の榎屋唯右衛門の子で、十歳で京都にあった鴻池の店に奉公に出て、二十二歳の時には大坂の鴻池の別家である草間家の婿養子になります。

保己一とは親しい間柄だったようで、群書類従の刊行に多大な援助を行ったようです。伊助は単なる知人ではなく、保己一の門人となり、後に伊助が「三貨図彙」という本を出版した際に、保己一が序文を書いていきます。

保己一は数度大坂へ旅行していますが、その時は必ず伊助と面会し、鴻池の一族とも深い関係を持っていたようです。

ミニ知識⑤

水戸藩と保己一

水戸藩の二代藩主、水戸光圀の「大日本史」の編さんは有名です。光圀は、大日本史の編さんのために彰考館を設置しました。この彰考館の総裁だった立原万（翠軒）が保己一を水戸藩に招き、大日本史の編さんに従事させました。

ある時、保己一が弟子の屋代弘賢の家を訪れると、学者たちがある御願文の作者は誰かと討論中でした。年号を明らかにする紀年銘から、後伏見院か花園院のどちらかの天皇であることはわかりましたが、決め手がありません。もう一度御願文を弟子に読ませると、保己一は花園院の作品だといいました。その理由を説明すると、学者たちは保己一の力量に驚いたといえます。

同席していた立原万も、保己一の学力の高さにほれ込み、大日本史の編さんに協力を申し込んだのでした。保己一にしてみれば彰考館が持つ多数の書籍類に魅力を感じ、進んで協力したと思われる。